



当センターから徒歩15分にある小山市消防署。

アジア研修センターでの生活 ～受入れ団体講義編②～

当センターにおいて日本語学習以外にも様々なことを学習している研修生のみなさん。8月号では前回に引き続き、受入れ団体主催の講義の様子をレポートします。今回は、小山市消防署のご協力を得て実施されている防火・防災講義の様子をお届けします。当センターでは、日程調整・通訳の手配の他、小山市消防署までの当日の研修生引率のお手伝いも行なっています。



防火・防災についての講義に耳を傾ける研修生。真剣な眼差し！



かじだー

初期消火訓練。
一般的な消火器の場合
射程は約3メートル。
15秒程度の噴射が可能
だそうです。



研修生の感想



中国：江蘇省出身
仇海（きゅう かい）さん



私の専門は溶接で、火を使う仕事ですから消火器の使い方が練習出来て、とてもよかったです。小山で火災の原因は「放火」が一番多いと聞いてびっくりしました。



タイ：Udon Tani 出身
PHOSRIRAT APISIT
(アピシット)さん



日本では火事と救急の電話番号が同じなので驚きました。また、私の国では救急車を呼ぶとお金が掛かります。日本はタダですからとても便利だと思いました。

TIFLA流日本語授業

～教材・教具の工夫①～

8月号からは本校が推し進めている、コミュニケーション能力を重視した「実践的な日本語力」の育成のために活用されているオリジナル教材や、教具の工夫の実践例をご紹介します。

オリジナル教材：『かじですか？ きゅうきゅうですか？』



A：実習生

B：消防署員

【会話例】

A：もしもしー！
B：はい、おやましようぼうしよです。
かじですか？ きゅうきゅうですか？

A：かじです。りょうが かじです。
B：じゅうしょは どこですか？
A：おやまし かみやま
2-6-4です。

B：ちかくに なにがありますか？
A：がっこう があります。
りょうは がっこうのうしろです。

B：なにが もえていますか？
A：だいどころが もえています。

B：わかりました。すぐ、いきます。

防火・防災講義で得た知識を生かして会話練習に取り組む研修生達。実生活に密着した題材は、学習者のモチベーションの向上にも効果があります。

【解説】

この教材は Focus on Form (フォーカス オン フォーム) と呼ばれる比較的新しい第二言語習得論の考え方 (コミュニケーション能力の育成には、コミュニケーション活動を中心に授業を展開しながら、文法の形式 (活用のルール等) にも意識を向けさせることが必要とする考え) を取り入れた会話練習用の教材です。研修生は、A：寮が火事になってしまった人物役 (火災現場と状況を日本語で伝える。) と、B：119の通報を受けた消防署員役 (火災の状況を把握する。) に分かれて会話をします。このタスクは、既に教科書の第3課で学習した位置詞 (～のうえ・した・まえ・うしろ等)・存在文 (～があります・います)、第10課で学習した進行形 (～ています) 等の文法事項が自然な文脈で使用されるように予めデザインされています。したがって、講師はこれらの既習事項が正しく使用されているかがチェック出来、正しく使われていない場合には活動の後で、学習者にフィードバックを行なうことで、ある程度自由にコミュニケーション活動を行なわせる一方で、正確な文法知識の習得の必要性を学習者に意識付けることも出来るように配慮されています。

参考：Doughty, C. & Williams, J. (1998).

Focus on Form in Classroom Second Language Acquisition.

Cambridge University Press